



「ヨイショ ヨイショ。」

重いタイヤを立てた。

さあ 動かすぞ

初めにタイヤの上にあがった

足でクルクルと動かす

タイヤは回って 行きたい所へ行く

中に入って丸くなる

タイヤが回るとぼくも回る

ぼくはさかさまになった

目がまわる

もうがまんできない

タイヤはまるでドーナツみたいだ

六年 鈴木啓之

昭和51年6月1日

編集・発行

岡崎市教育委員会



体力づくりにはげむ——山中小

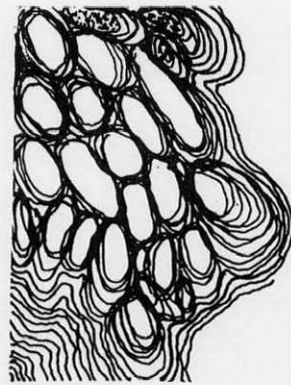
教育随想

名松(陣屋・蓮如)下

一二年間

星野 孝

尾北生活五年。専攻科入学。そして卒業。昭和十五年三月三十一日付で額田郡福岡尋常高等小学校へ訓導として赴任。毎日、名松、陣屋・蓮如の松を仰いでの生活が始まった。担任は高一男子組。かつて「劳作教育」で名の高かったこの学校にはその名残りが一部残っていた。で、わたしも、子どもたちが調べて来たことを発表し、討議しあい、重要点を教師が押さえていくという授業の進め方を国語や算術の授業に適用していった。教室も楽しかったが、職員室も楽しかった。通称「お黒いさん」ことS先生と隣り合っていたの席だった。S先生は未婚の女教師だった。S先生はわたしの机上に一輪挿しをもってきて呉れた。そして、四季おりおり美しい花を挿してくれた。宿直の日には蒲団も乾しておいてくれた。わた



しも彼女に好意をもっていた。が、相思相愛の深い仲にまでは致らなかつた。その年の十月、わたしは今の妻と結婚した。そして交互に土俵月来生活が始まった。

うれしかった一晩でした来週を待っていますと妻より便り

間もなく運動会。わたしは「組立体操」を種目を選んだ。毎日毎日、あるいは部分的に、あるいは全体的に、子どもたちは真剣に練習した。運動会当日、招かれて妻も職員家族席に座を連らねていた。子どもたちの「組立体操」は観衆の万雷の拍手の中に終わった。

あなたの組の体操がいちばん好かったわ新妻が言ふ運動会の夜翌年、わたしは六男担任。妻は羽根小

学校に転じ、二人は新居を戸崎に構えた。戦争へ戦争へと国の歯車は回転し、臨戦体制の名のもとに統制経済となり、衣料も食糧も配給制となっていた。吾と妻へ配給の米どの粒もどの粒もみな赤き筋入る

でも、二人の生活は楽しかった。

星光のうつる田川に沿ふ道を妻

ひたと寄る貰ひ湯帰り

家に浴槽ができてからは、

快き風呂の加減よ縫ひものはし

ばらく措きて汝も来よ早う

と詠んだのもこのころの事。

或る日突如「県視学来校。視学は佐藤

を対象の研究授業にせよとの至上命令。

「先生よかつたねきのふ週案書い

といて」隣の席の女教師が言ふ

ところが、その時間からは書いてなかつたのである。どんな教材だったかは覚えていないが、

ともかくも押さふるべきは押さ

へつと心足らひて一時間終ふ

そして、例によって授業後の批評会。その席上、

「物差は物差であつて鞭ではない。」

刺されて清し同僚の言

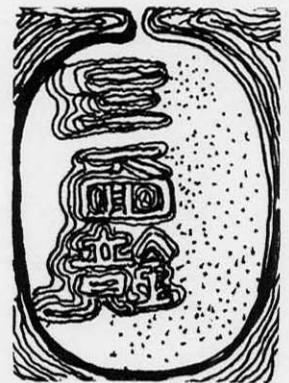
その同僚、現在岡崎の名校長。

翌春、三つ巴式交流人事によって下山

国民学校へ転任を命ぜられ、愛着をもち

ながらも福岡を去つたのだつた。

(愛知県野外教育センター所長)



そろばんと計算機

・そろばんは消える

江村 力

私のクラスでは、七割強の子どもが、そろばんを習っている。

「おかあさんが、そろばんやつておく

と役に立つからつて。」

私は、ときどき疑問に思う。はたして

そろばんをはじめておつりをくれる店が

どれだけあるというのだ。

一方、計算機の単価は著しく安くなり

三千円ぐらいで手に入るようになった。

四、五年先、必ずそろばんより安くなる

だろう。その時、そろばんは姿を消し、

あちこちの教室で、子どもたちが計算機

をたたいている光景を見ることができ

だろう。しかし、きょうもまた、そろば

ん塾ではセカンド・スクールが始ま

っている。

・計算力のつくそろばん

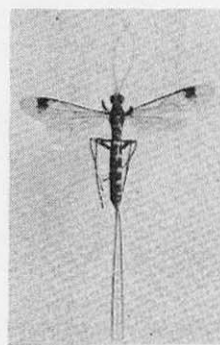
(六ツ美南小)

柴田はな江

電卓を持っている子ども家庭は予想

以上に多く、学級の過半数を占めていた。

ふるさとの自然



オオホシオナガバチ

刺すハチ

刺さぬハチ

ハチと聞くと、身震いする人がある。花から花へと無心にとび交うミツバチを何げなしにつかまえて刺されたり、洗たく物の中にまぎれ込んだアシナガバチにチクリとやられたりした経験を持つ人は多いと思う。しかし、スズメバチ、俗に団子バチと呼ばれるハチに刺されたら大変である。飛び上がるほどの痛み、ひどいのは、人によってはそのために幾日も通院しなければならぬ場合もある。

腺がないから刺はれあがることはない。ひと口にハチといっても、いろいろな種類がある。以下に、刺すハチ、刺さないハチを三種類ずつ紹介してみよう。

・ニホンキバチ 体がずんどうで長い産卵管を持つ。ハチの中では、一番原始的で、材木に穴をあける害虫である。個体数は少ないが、岡崎の山地で見かけられる。

・オオホシオナガバチ 四、五センチの長い産卵管を持つが、毒腺がない。これは木の中にいるカミキリムシの幼虫に産卵するためのものである。

とここで、ハチならどれもが刺すのかというと、そうではない。というのは、刺すのはメスに限るからである。オスはおしりをあげて、いかにも刺すようなしぐさをするが、残念ながら針がない。針は、もともと産卵管であるので、オスにあつたらおかしいというわけである。

メスでも刺さないハチもある。キバチ科やハバチ科の仲間には産卵管が体からとび出して槍のように見え、いかにも刺しそうに見えるが、この槍は武器ではなく本来の目的に使用され、卵を産みつけるだけのものである。

コマユバチ科、ヒメバチ科も、産卵管の長いハチで、刺すには刺すのだが、毒



ニホンキバチ



オトウアメバチモドキ

市内の山地で比較的良好に見かける。・ヨトウアメバチモドキ 体がアメ色をしていて、ヨトウドガに寄生する益虫で比較的良好に見かけるハチである。次に、刺されると痛みが強烈なハチを紹介する。アシナガバチなど、よく知られたものはのぞく。

（刺すハチ）

・ヒメスズメバチ 市内ではスズメバチヒメスズメバチ



コモンツチバチ



クロクバチ
モッコウバチ
オベ

よりこのヒメスズメバチの方がよく見かけられる。

・コモンツチバチ 一見ミツバチに似ているが、体が細長い益虫である。

・オオモンクロベッコウバチ はねは全体に暗色で、体は黒色、朱色で帯状の横紋があり刺されると猛烈に痛い。

（河合中 三浦重光）

父親の計算の手伝いに、母親のスーパーでの買い物のお供に……と、生活の中に入り込んでいる。

「文明の利器を使わなくっちゃ」と電卓に頼っている。しかし、子どもたちが、計算機を使って計算をするということには、抵抗を感じ、そろばんを使つての計算ならよいと考えるのは、私だけだろうか。

「数の計算ができる」だけなら、考えないで答の出る計算機で十分である。ソロバンには、暗算の能力が要求される。このために、そろばんをやつておれば、計算の能力も自然に身につくと思われる。

・捨てがたいそろばん

内堀 博之

なぜこのように電卓が普及したか。第一に考えられるのは、思考が楽であることである。第二に、これを使うのに熟練を要しないためである。

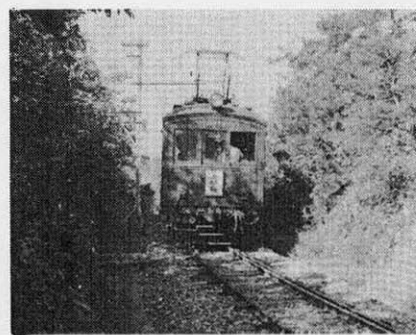
これに反し、そろばんは、一たん熟練すれば計算のスピードは電卓より早い。特に加減においては著しい。

また、そろばんは、電卓のように、電池を入れかえたり、ソケットをコンセントにさしたりするような、エネルギーの補給や注入はいつい必要ない。こういう利点とともに、単純な道具を使いこなす味も捨てがたい。そろばんは電卓に駆逐されないだろう。

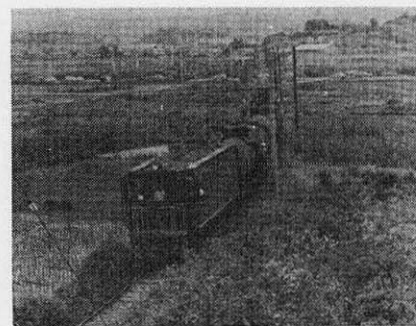
（連尺小）

岡多線

— その歩みをさぐる —



名鉄挙母線 昭37.7



貨物輸送中の挙母線 昭46.7

岡多線の旅客営業運転が始まった。この岡多線を、建設当時から、克明に写真にとり続けた南中学校の市川満先生の記録から、その姿を明らかにしてみたい。

●歴史をたどる

岡多線敷設までの歴史は古く、また当初の計画も時代の変化とともに大きく変わった。すなわち、全国各地に鉄道敷設の気運の高まっていた昭和二年、岡崎市などを中心として、沿線の一市六町六村で期成同盟会が結成され陳情が行われた。

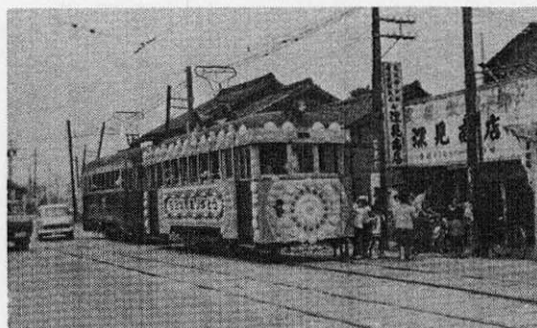
その内容については、資料が関係団体になくはつきりしたことはわからないが、岡崎―多治見間相互の人々の交流、また豊田市（当時の挙母村）を中心とする製糸業、猿投山麓の珪砂、そして瀬戸・多治見などの陶器の輸送がその目的だった

と思われる。こうしてまず昭和五年、鉄道敷設に先がけ、我が国最初の省営バス（現在の国鉄バス）が運転されたのである。

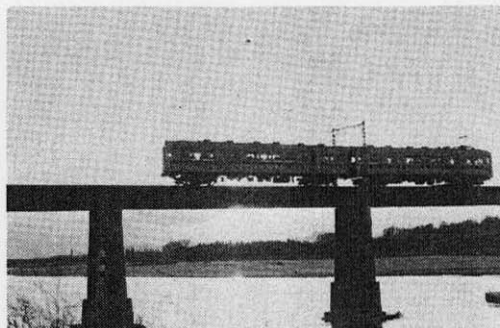
●処女列車

その後、現地測量もなされ、敷設計画に至ったが、昭和十六年・大東亜戦争でそれも中断され、以後、戦中戦後を通じて十六年の空白があった。しかし、西三河内陸工業地帯の急速な発展にともなって昭和三十二年、再度敷設計画の対象となり、昭和四十年工業が開始され、昭和四十五年十月、北野榊塚駅からトヨタの新車を満載した処女列車の発車をみた。

昭和四十八年三月、名鉄挙母線が廃止され代行バスが運転開始したものの、通勤通学者も多く、岡多線の旅客輸送の早期開始が強く要望されながらも、用地問題などで当初計画より約三年遅れで、昭



岡崎市内線 お別れ電車 昭37.6.17



矢作川を渡る 昭47.12

和五十一年四月旅客営業を開始に至った。戦後開通した国鉄路線としては、開業時から電化されたものとしては、最初のローカル線で、その大半が高架となり、道路とはすべて立体交差する、今後の鉄道の姿を表わす代表的な鉄道である。

● 挙母線とくらべて

ここで、昭和四十八年三月廃止になった名鉄挙母線と比べてみよう。

挙母線では、二十六往復の電車が、岡崎市内からトヨタ自動車前駅（以遠の駅も含む）相互の乗客を一日約四五〇〇人運んでいたといわれる。

それに対し岡多線は、一日十三往復で輸送人員は、現在開業の珍しさも手伝っ

て安定期にはいついていないので、まだその実態はつかめないが、国鉄部内では、約八〇〇〇人と見込み、その主たる輸送は、朝夕の通勤通学者で占められ、昼間帯はバス、マイカー利用者の多い典型的なローカル線と考えているようである。

● 貨物輸送

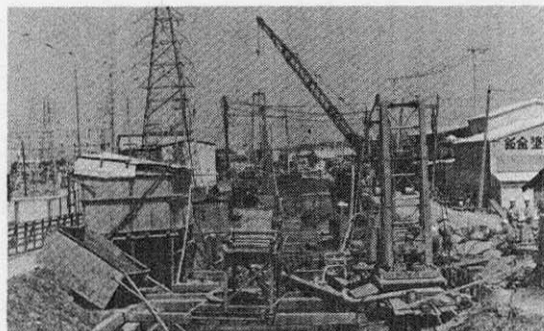
一方、貨物輸送は、中部地方でも主体を占め、北野塚駅から八往復一三〇〇トン（四十七年をピークに年々減少しているが）、北岡崎駅から二往復二八〇トン（ともに一日平均）の発着がある。（参考までに、岡崎駅のそれは四〇〇トンで北岡崎駅からの貨物輸送が開始されるまで利用されていた挙母線の輸送量は二往

復で二〇〇トンであった。）

挙母線廃止の代行バスも岡多線旅客開業により、国鉄バスとともに、運転本数が大幅に削減された。

● 将来計画

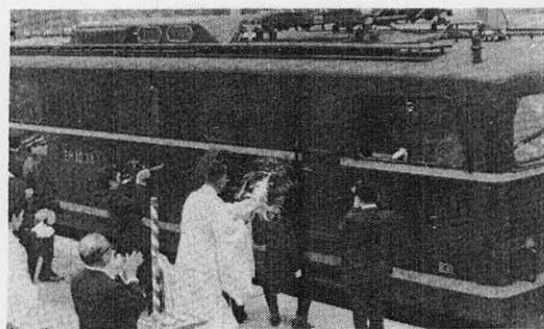
将来の計画として、昭和五十三年の開通を目標に、現在瀬戸まで工事の進められている岡多線と同時に開通予定の瀬戸線（瀬戸―高蔵寺間）が完成し、岡崎―豊田―瀬戸―名古屋線が結ばれ、さらに現在工事中の名鉄豊田新線などとも有機的に結合され、中京圏高速鉄道網の一翼を担う岡多線の役割が期待されるのである。



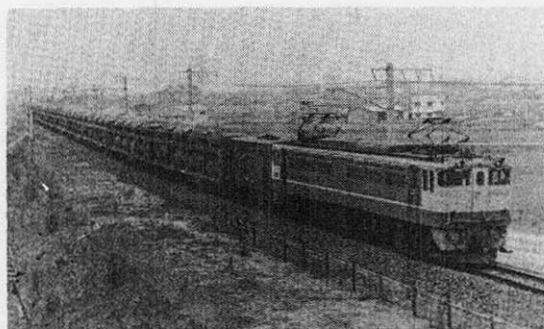
早川の上に高架線建設 昭44.5



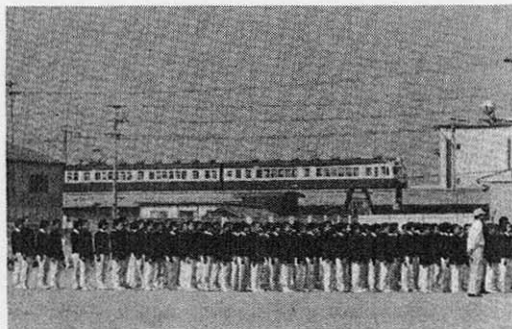
工事中の六名付近 昭45.5



開通一番列車・北野塚駅 昭45.10.1



自動車を運ぶ 昭50.2



城北中の近くを走る 昭51.5

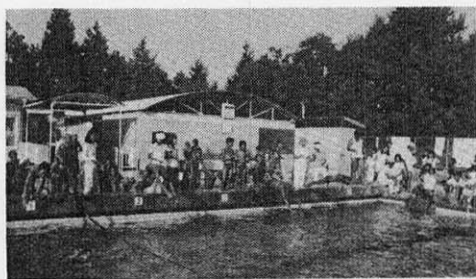
水泳指導 十二年

鈴木 勘 三

水泳指導に手をそめてから十二年。夏ともなれば、はだかがユニホームとなる。水泳に明け暮れた十二年、接した子どもは延べ千八百人にもなろうか。幼い時熱病で両足の指をすべで失っていたM。どんな時でも靴下をはなさず、常に緊張状態にあり、目の光が尋常でない。発作的に乱暴をはたらく。

「水泳をやらせましょう」
まず両親を説得、しぶるMをプールへ入れた。靴下をはいたままで……。

それから、彼と私との触れ合いが始まった。日一日と進歩するMに級友の拍手が励ましとなり、ついに五十mも突破した。Mは新たな生命力を得て成長精神は落ちつき強靱となった彼は、現在大学に進んでいる。



昨年のものであるが、Aという男の子が来た。正直なところ、「えらいやつが来たもんだ。」と思った。いたずらがひどく、友達にきらわれ、だれ一人親しく口をきく子もいない。

案の定、彼の泳いでいるコースから悲鳴が上がり、苦情が絶えない。叱つてもなだめても、十秒とはもたない。

そんなある夜、私は床に横たわりながら、彼の処遇について考えた。このままでは、全体が彼のためにふりまわされてしまう。いつそ、くびにするか。

その時、私は「人生の出会い」に思い至った。彼と私の出会いは神の結び給うた縁である。世

界全人類の中の一人と一人が奇しくも水泳をなかだちに出会ったのである。

翌日から、Aを一切叱らず、もっぱらほめることにした。もちろんほめられた泳ぎではないのだが、他の子どもが何と訴えても、私は「Aをもっと温かく迎えてやれ。」と言うだけ。

教育日々

私の保健指導

平松 キヌエ

保健審が出されて四年が経過した。保健指導は定着しているのだろうか。中学校では、進学指導・部活動などぎっしりつまった日課の中では、特に指導の時間をとることは困難があると

私の口先だけのほめことはが次第に心からのものに変わっていったところ、Aの行いがみるみる変わっていった。

水泳指導において、技能の指導は重要であるが、その底には常に生命力を育てる心が流れていなければならない。

(井田小)

思われるが、そんな心配は私だけのものではあろうか。

養護教諭としてその他の職務内容との関係はうまくできているだろうか。私もこのような中で何とか健康づくりに役立つことができたかと、自分のできる範囲で保健指導の資料や保健だよりの作成に努力して来たのである。

指導の前はあんな仕事も、こんな仕事もいろいろな欲張ったが始めて見ると思う半分も仕事は進まない。時間の不足、指導などでつい挫折しようとする私である。

そんな時、私を力づけてくれるのは子供たちである。多忙の日課の中で、いろいろな仕事を計画し実践する子供たちは嫌な顔も見せず協力してくれる。ある生徒は語った。

「保健委員になったのはこれで

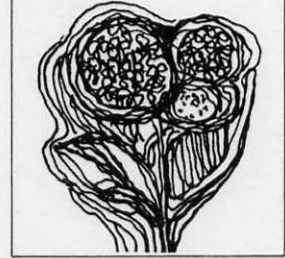


二回目だ。前の時は余り仕事をしなかった。

今度は調査係になって校内の危険な場所を点検したり、欠席の理由を調べたり、友達の世話をしたり、いろいろな仕事をするようになった。このような仕事をして見ると保健委員になったという実感が、わいてくる。委員というのはあまり好きでなかったが今はなつてよかったと思う。

こんな声を聞く時、もつと子供に興味のある、役に立つ指導ができるよう努力したいと思う。

(美川中)



第三回岡崎市民大学開講

記念の年多彩な講師陣

年毎に好評を呼んでいる市民大学もこととして三年め。ことはまた、市制六十周年、家康公三百六十年祭記念ということもあって、岡崎や家康公にゆかりの作家をはじめ、各回に著名話題の講師を迎え七月以降七回に亘って開講する。

多くの市民の参加をと大学運営委員会(委員長広幡小塚本時丸校長)では張り切って準備を進めている。開設要領は次のとおり。

- △日程と講師 ①7月11日「徳川家康の人間管理」南条範夫氏(作家) ②7月25日「人間たちの魅力」城山三郎氏(作家) ③8月8日「中国の印象」茅誠司氏(元東京大学学長) ④8月29日「母国語の発見」渡部昇一氏

【寄贈刊行物・資料等】 ◇岡崎の歴史

岡崎の歴史編集委員会 市民のための平易な岡崎の通史をとの要望に応じて刊行されたはじめての市民歴史読本。社会科の先生を中心に国語、図工美術の先生が協力して二年

■多年勤続表彰の先生方
市内の学校に多年勤続(25年

がかりで編集が進められていたもので、岡崎の原始から現代に至る各時代の特色を新しい視点からとらえて綴った労作。市制六十周年、家康公三百六十年祭にちなむ企画でもあり好評を呼んでいる。A5判二五九ページカバー多色刷。頒価一〇〇〇円

以上)の教育職員として七月一日の市制記念日に表彰を受ける方々は次のとおり。

- 【小学校】▽梅園▽桜井ちづ子、島田成子▽根石▽石川貢▽男川▽加藤榮、畔柳正夫▽美合▽山本正義、岡田金二▽六名▽長浜安雄、山本尚、太田ふみ江▽三島▽安枝多美▽連尺▽高木節子、柴田祥子▽福岡▽黒野喜美▽竜谷▽原田光男▽山中▽佐々木秀芳▽本宿▽田中俊雄▽生平▽浅井トミ子▽秦梨▽東原仁▽恵田▽野村範▽大樹寺▽大野隆、山田嘉三▽矢作東▽柴田ヒデノ、小林續▽六ッ美中部▽清水弥生▽六ッ美南部▽木藤広二
- 【中学校】▽甲山▽石川志郎▽美川▽太田晋、黒柳一夫▽竜海▽山田栄子▽葵中▽大山保▽河合▽沢田昇▽香山▽杉坂三郎▽矢作▽加藤深【市教委】学校教育▽浅井千代子▽前岡崎小▽稲吉正春 (敬称略)

市制六十周年「市民讃歌」

小中学生が記念式典で発表

市制六十周年を記念した「市民讃歌」が市民讃歌作成委員会(代表矢西小山本校長)の先生方によって完成し、七月一日、新装の市体育館で開かれる記念式典で二千五百人の小中学生が発表する。なお、学校ではこれ以後も各種の行事等の機会に歌い市民意識の高揚をはかる。

序

段戸の山の 霧はれて
矢作の水は 絶ゆるなく
甲山(かぶとやま)への ひらけ
きて

市制はここに 六十年

よろこびの歌 いまひびく
よろこびの歌 いまひびく

大正五年 夏の空
英傑しのお 竜城に

葵の花の 咲きみちて
うぶ声あげし 岡崎市

2
菅生川原に 水清く
映す城下の 町のかげ
ネオン・電車に 夢あふれ
花にさざめく 人の波

3
村積山に 雲重く
苦難に耐えて ひたすらに
町を守りし同胞(はらから)の
燈火(とうか)とだえし深き闇

4
戦火おさまり 焼け跡の
町に伸びゆく 草の丈
穂音高く 立ち上がる
思いは遙か 石の碑(ふみ)

5
台風ひとたび 去りてより
白亜のピルの 建ち並び
文化香れる 三河路に
天守輝く 秋の空

6
岩を砕きて 生い出する
三河黒松 力あり
伝統ここに 受けつぎて
築く未来の 岡崎市

結
花と緑と 清流に
きらめく太陽 わが行く手
憲章高く 口ずさみ
誓い新たに 進み行く
われらの町に 栄えあれ
われらの町に 栄えあれ

正 観 寺 (市内桑原町)



点

天智天皇のころ、岩津町に雷がしきりに落ち、村人たちはたいへん恐れた。ある夏の日、桑原地内にまた雷が落ちた。その時、道ばたで草刈りをしていた一人の童子が、持っていた鎌でその雷を切ってしまった。不思議と雷がピタリと止んだ。と、そこには雨に濡れた観音さまがころがっていた。

あの童子は観音さまの化身だ、ということがたちまち伝わり、村人はさっそく御堂を建てた。今の正観寺(桑原町)といわれる。以後、村人は雷のたびにクワバラ、クワバラとお祈りするので、観音さまの加護あつて雷が落ちなかったという。桑原地名もこうしたことが起因といわれ、雷畑という土地も現存する。また、正観寺では、以前、観世音菩薩の像と草刈り鎌の印を押しした神符を雷除けとして発行していた。

カット 甲山中 三 後 勝 弘

この本を

- | | |
|----------------------------|--|
| 鬼怒川
新潮社
¥九五〇 | 有吉佐和子
梅干と大福帳
祥伝社
¥六〇〇 |
| 志賀島
文芸春秋
¥八八〇 | 岡松 和夫
ニッポン人の生活
ビエール・ランデイ
¥四五〇 |
| 生きざま
集英社
¥九五〇 | 柴田錬三郎
教えるということ
白水社
¥六五〇 |
| 最後の手紙
毎日新聞社
¥九八〇 | 共文社
田中清之助・香山 芳久
¥八〇〇 |
| 空海の風景 上・下
中央公論社
¥九五〇 | 司馬遼太郎
西三河古寺抄
日新堂書店
¥二〇〇 |

けずれない、むすべないのが、このころの子ども。家庭に任せておけぬと、五月雨のある日、一時間とって「風呂敷の結び方」の学習。教室は湧きに湧く。その使用法に十数種もあり、世界に誇る日本人の暮しの知恵を再認識、とはいささか大風呂敷か。

ご け

ご(語) 録という、毛沢東が頭に浮かぶ。市長訪中講演の中に、中国では、教育が、常に生産活動との関連においてなされているとあった。日本の教育如何。麦秋や風にも告げず白の音 也有麦そのものを知らない子どもも多い。まして麦秋をや。

む し

し(至)言は言を去る
良寛は、「戒語」九十ヶ条に「ことばの多さ」「口のはやさ」「よく心得ぬことを人に教うる」など、もの言いについて幾多のいましめのことばを残したそうである。とかく教師は多弁であるとと言われる。今一度かみしめたいことばである。

む(無) 気力な子供が、教師のちよつとした働きかけで、やる気になり、動き廻る。

そんな時の教師の喜びは、なんとも言えないものがある。やる気になった子供の喜びと、教師の喜びが教室に広がる。そんな教室が子どもと教師の生きがいの場でもある。